

日本菌学会第58回大会（北陸）プログラム

主催： 日本菌学会  
日本菌学会会長 奥田 徹  
日本菌学会第58回大会会長 佐藤幸生（富山県立大学）

期日： 2014年6月13日（金）～15日（日）

会場： メイン会場：「サイエンスヒルズこまつ」  
〒923-8610 石川県小松市こまつの杜2番地 電話 0761-22-8610  
総会会場：「こまつ芸術劇場うらら」  
〒923-0921 石川県小松市土居原町710番地 電話 0761-20-5500

大会事務局： 石川県立大学 環境科学科 日本菌学会第58回大会事務局  
〒921-8836 石川県野々市市末松1-308 事務局長 田中栄爾  
電話：076-227-7473 E-mail:msjmeeting58@mycology-jp.org

日程：

6月13日（金）

9:30～12:00	編集委員会	（こまつビジネス創造プラザ・セミナー室）
12:30～14:30	理事会	（こまつビジネス創造プラザ・セミナー室）
14:30～17:00	評議員会	（こまつビジネス創造プラザ・セミナー室）
17:30～19:30	合同懇親会	

6月14日（土）

8:30～11:00	受付（総会会場）	（こまつ芸術劇場うらら）
9:00～10:15	総会	（こまつ芸術劇場うらら 小ホール）
10:15～11:00	各賞授与式および受賞講演	（こまつ芸術劇場うらら 小ホール）
11:00～12:00	特別講演	（こまつ芸術劇場うらら 小ホール）
11:30～17:00	受付（メイン会場）	（サイエンスヒルズこまつ）
12:00～13:00	高校生ポスター発表コアタイム	（サイエンスヒルズこまつ）
13:00～15:00	シンポジウム	（サイエンスヒルズこまつ イベントホール）
15:30～17:00	口頭発表	（サイエンスヒルズこまつ イベントホール）
18:00～20:00	懇親会	（ホテル サンルート小松 2F「インペリアル」）

6月15日（日）

9:00～15:00	受付（メイン会場）	（サイエンスヒルズこまつ）
9:30～11:45	学生会員口頭発表	（サイエンスヒルズこまつ イベントホール）
11:45～13:00	ポスター発表コアタイム	（サイエンスヒルズこまつ）
13:30～16:00	口頭発表	（サイエンスヒルズこまつ イベントホール）
16:00～より	閉会式と学生発表授賞式	（サイエンスヒルズこまつ イベントホール）

## 大会案内

### 1. 受付

事前登録参加者、当日参加者、招待参加者、いずれの方も必ず受付で手続きを行ってください。受付は、14日(土)8:30~11:00の間は総会会場にて、14日(土)11:30~16:30および15日(日)9:00~16:30はメイン会場にて行います。

当日参加費は以下の通りです。当日受付の懇親会参加希望者はなるべく事前に大会事務局にお申し込みください。

- 大会参加費(講演要旨集代を含む)

通常会員	8,000円
学生会員	6,000円
非会員	9,000円
- 懇親会参加費

通常会員および非会員	7,000円
学生会員	4,000円
- 講演要旨集のみ 1部 2,000円

### 2. 名札

領収書兼用の名札は当日、受付でお受け取りください。

### 3. 口頭発表

- 口頭発表の持ち時間は15分(12分発表、3分討論)です。
- 発表はWindows 7, MS PowerPoint 2010を用いておこないますので、それ以降のバージョンで動作確認してください。
- ファイル名は、講演番号+講演者氏名.pptとしてください。(例:A01 講演者.ppt)
- 発表用のファイルサイズは7.5 Mb以下で作成してください。
- 発表用ファイルを**6月9日(月)17:00必着**で [msjmeeting58@mycology-jp.org](mailto:msjmeeting58@mycology-jp.org)宛にメールに添付して送ってください。
- メール配送ができない場合は、予備のアドレス [msjmeeting58@gmail.com](mailto:msjmeeting58@gmail.com) に送ってください。
- 受け取りの連絡はいたしません。ファイルが届いていない場合や、ファイルに不備がある場合のみ実行委員からメールで問い合わせをします。
- 発表用ファイルは大会後に実行委員会で責任を持って削除いたします。
- 講演中のコンピュータ操作はPC操作係がおこないます。

### 4. ポスター発表

- ポスターは**縦長**で、大きさは最大A0版です。縦118cm×横84cmの範囲で収まるようポスターを作製してください。
- サイエンスヒルズこまつ(メイン会場)ホールの掲示ボードに、発表コア・タイムまでに備え付けの画鋸で掲示してください。
- 会員の発表コア・タイムは15日(日)11:45~13:00です。高校生ポスター発表のコアタイムは14日(土)12:00~13:00です。
- 発表コア・タイムには、適宜ポスター前に立ってご発表ください。
- ポスターは15日(日)16:00までに撤去してください。それ以降残っているポスターは廃棄します。
- 画鋸は所定の場所にご返却ください。

### 5. 昼食

- 会場周辺のレストラン、コンビニなどの案内図をご用意します。メイン会場のレストランも営業しております。
- お弁当などの飲食は休憩室でお願いいたします。会場内は休憩室以外すべて飲食厳禁ですので、ご承知おきください。

### 6. 休憩室

- 休憩室にコーヒー、紅茶、緑茶などをご用意しますので、ご自由にご利用ください。
- 大会会場内では休憩室内でのみ飲食可能です。

### 7. 喫煙

- いずれの建物も禁煙です。喫煙は戸外の灰皿が用意してある場所のみにてお願いします。

### 8. 学生発表優秀賞

- 高校生ポスター発表の優秀な発表に対して、大会から賞を授与します。
- 菌学会学生会員の優秀発表者に対して大会から賞を授与いたします。ポスター発表から1名、口頭発表から2名を予定しています。15日(日)午前中は学生会員の口頭発表時間としてあります。
- 受賞者は受付に各日15:00までに掲示します。確認して授賞式にご参加願います。

日本菌学会第 58 回大会(北陸)プログラム

6 月 14 日(土) こまつ芸術劇場うらら 小ホール

時刻	
9:00	総会
10:15	各種授与式および受賞者講演 座長 奥田 徹 玉川大学学術研究所 日本菌学会奨励賞 AW01 <i>Aspergillus</i> 属関連テオモルフの分類学および生態学的研究 松澤哲宏 長崎県立大学シーボルト校
11:00	特別講演(一般開放) 座長 前川二太郎 鳥取大学 E01 イグチ類の分類における新たな動きと日本における研究の現状 長澤栄史 (財)日本きのこセンター菌茸研究所

6 月 14 日(土) サイエンスヒルズこまつ

時刻			
12:00	高校生ポスター発表コアタイム (~13:00)		
	A 会場	B 会場	C 会場
13:00	日韓合同シンポジウム(一般開放) Japan-Korea Joint Symposium on Current Topics in Mycological Research Organizer: Katsuhiko Ando (NITE-NBRC, Japan) S01 Is mysterious truffle-like fungus from the Bonin Islands, <i>Boninogaster phalloides</i> , actually a <i>Sclerogaster</i> ? K. Hosaka*, K. Nam. (National Museum of Nature and Science, Japan) S02 Diversity of <i>Penicillium</i> Species Isolated from Soils of Gangwon-Do, Korea Youn Su Lee*, Sang Woo Kim, Dil Raj Yadav, Mahesh Adhikari, Anam Giridhar Babu (Kangwon National University, Korea) S03 Microbial diversity in Korean fermented foods by using molecular biological tools Ha Kun Kim*, Jong Soo Lee (Pai Chai University, Korea) S04 Trend of Mushroom Industry and mushroom Research in Korea G.S. Seo*, M.K. Kim (Korea National College of Agriculture and Fisheries, Korea) S05 Molecular phylogeny of labyrinthulomycetes (Stramenopiles) Satoshi Sekimoto* (NITE-NBRC, Japan) *Presenter	菌類研究ワークショップ(一般開放) 担当:佐藤幸生, 森川千春, 松本 淳	北陸のきのこ会の合同講演(一般開放) 担当:橋屋 誠
15:00	高校生ポスター発表授賞式		

6月14日(土) サイエンスヒルズこまつ

	A 会場	B 会場	C 会場
時刻	座長 高松 進	座長 清水公徳	座長 保坂健太郎
15:30	A01 <i>Aspergillus</i> section <i>Fumigati</i> に分類される2新種と分離例の稀な種について ○堀江義一 <sup>1)</sup> ・松澤哲宏 <sup>2)</sup> ・五ノ井透 <sup>1)</sup> ・上田成一 <sup>2)</sup> ・Paride Abliz <sup>3)</sup> ・矢口貴志 <sup>1)</sup> (1) 千葉大学真菌医学研究センター; 2) 長崎県立大学; 新疆医科大学、中国)	B01 ハラタケ亜門のシングルコピー遺伝子を対象とした新規プライマーの開発～次世代シーケンサーを用いた分子系統推定を想定して～ ○佐藤博俊 <sup>1)</sup> ・田辺晶史 <sup>2)</sup> ・東 樹宏和 <sup>1)</sup> (1) 京大・院・人環; 2) 水研セ・中央水産)	C01 富士山の野生きのこに含まれる放射性セシウム濃度 (2013) ○後藤康彦 <sup>1)</sup> ・桧垣正吾 <sup>2)</sup> ・保坂健太郎 <sup>3)</sup> ・柴田 尚 <sup>4)</sup> ・広井 勝 <sup>5)</sup> ・野村貴美 <sup>6)</sup> (1) 菌類懇話会; 2) 東大 RIC; 3) 国立科博; 4) 山梨県森林研; 5) 郡山女子大; 6) 東大院工)
15:45	A02 <i>Aspergillus fumigatus</i> のテレオモルフの形態と遺伝的性質 ○松澤哲宏 <sup>1)</sup> ・矢口貴志 <sup>2)</sup> ・五ノ井透 <sup>2)</sup> ・Paride Abliz <sup>3)</sup> ・堀江義一 <sup>2)</sup> (1) 長崎県立大学; 2) 千葉大・真菌センター; 3) 新疆医科大学、中国)	B02 次世代シーケンサーを用いた菌根性きのこマツタケの SSR マーカーの開発 ○成松真樹 <sup>1)2)</sup> ・小岩俊行 <sup>1)</sup> ・黒河内寛之 <sup>3)</sup> ・練 春蘭 <sup>3)</sup> ・坂本裕一 <sup>4)</sup> ・俵谷圭太郎 <sup>5)</sup> (1) 岩手県林技セ; 2) 岩手連大農; 3) 東大アジア生研セ; 4) 岩手生工研; 5) 山形大農)	C02 福島県内における野生きのこの放射性セシウム濃度の動向(2013) ○広井 勝 <sup>1)</sup> ・桧垣正吾 <sup>2)</sup> ・保坂健太郎 <sup>3)</sup> ・後藤康彦 <sup>4)</sup> ・野村貴美 <sup>5)</sup> (1) 郡山女子大; 2) 東大 RIC; 3) 国立科博; 4) 菌類懇話会; 5) 東大)
16:00	A03 本邦環境中からの <i>Aspergillus fumigatus</i> 及び関連種の分離とその薬剤感受性 ○矢口貴志 <sup>1)</sup> ・伊藤純子 <sup>1)</sup> ・今西由己 <sup>1)</sup> ・廣瀬 大 <sup>2)</sup> (1) 千葉大真菌センター; 2) 日大薬学部)	B03 <i>Tricholoma matsutake</i> 菌根に特異的に発現する遺伝子の検出 ○坂本裕一 <sup>1)</sup> ・佐藤志徳 <sup>1)</sup> ・小岩俊行 <sup>2)</sup> ・成松真樹 <sup>2)</sup> (1) 岩手生工研; 2) 岩手県林技セ)	C03 野生きのこの放射性セシウム ○根田 仁 <sup>1)</sup> ・砂川政英 <sup>1)</sup> ・明間民央 <sup>1)</sup> ・服部 力 <sup>1)</sup> ・渡部秀行 <sup>2)</sup> (1) 森林総合研究所; 2) 福島県林業研究センタ)
	座長 矢口 貴志	座長 田中千尋	座長 佐久間大輔
16:15	A04 高温菌 <i>Rasamsonia byssochlamyoides</i> , <i>Talaromyces leycettanus</i> および耐温菌 <i>T. bacillisporus</i> の耐熱性 ○上田成一 (長崎県立大学栄養)	B04 <i>Cryptococcus neoformans</i> における DBB 染色反応に必須な遺伝子 <i>PMT2</i> の解析 ○清水公徳 <sup>1)</sup> ・今西由己 <sup>1,2)</sup> ・東江昭夫 <sup>1)</sup> ・宇野 潤 <sup>1)</sup> ・知花博治 <sup>1)</sup> ・C.M. Hull <sup>3)</sup> ・川本 進 <sup>1)</sup> (1) 千葉大真菌; 2) 関東学院大; 3) ウィスコンシン大)	C04 発光性きのこ培養菌糸体の継時的発光強度 ○寺嶋芳江 <sup>1)</sup> ・根田 仁 <sup>2)</sup> ・高橋春樹・広井 勝 <sup>3)</sup> (1) 琉大熱生研; 2) 森林総研きのこ・微生物; 3) 郡山女子大)
16:30	A05 石灰岩帯と浴室の <i>Scolecobasidium</i> 属のカビ ○浜田信夫 (大阪市立自然史博物館)	B05 ヒラタケにおける PKA 触媒サブユニット遺伝子の過剰発現 ○入江俊一 <sup>1)</sup> ・塚本梨恵 <sup>1)</sup> ・岡村沙樹 <sup>1)</sup> ・本田与一 <sup>2)</sup> ・泉津弘佑 <sup>1)</sup> ・鈴木一実 <sup>1)</sup> (1) 滋賀県大環; 2) 京大農)	C05 木材腐朽菌の未知系統を探索する三つの視点: 子実体, 分離培養, 環境 DNA 解析 ○白水 貴 <sup>1)</sup> ・宇野邦彦 <sup>2)</sup> ・保坂健太郎 <sup>2)</sup> ・細矢 剛 <sup>2)</sup> (1) 科博植物・学振 PD; 2) 科博植物)
16:45	A06 アラクシには何種類のカビがつかの？ ○高松 進・篠田俊哉・Siska Arie Santy Siahaan (三重大院生資)	B06 <i>Sphaeroceas pubescens</i> と <i>Endogone pisiiformis</i> のゲノム解析は陸上植物と真菌との共生の進化について理解を深める ○半田佳宏 <sup>1)</sup> ・山本航平 <sup>2)</sup> ・西出浩世 <sup>1)</sup> ・浅尾久世 <sup>1)</sup> ・重信秀治 <sup>1,3)</sup> ・川口正代司 <sup>1,3)</sup> ・内山郁夫 <sup>1,3)</sup> ・山田明義 <sup>2)</sup> ・斎藤勝晴 <sup>2)</sup> (1) 基生研; 2) 信州大学; 3) 研大)	C06 明治神宮の変形菌類 ○松本 淳 <sup>1)2)</sup> ・山本幸憲 <sup>1)</sup> ・萩原博光 <sup>1)</sup> ・小野新平 <sup>1)</sup> ・鈴木 博 <sup>1)</sup> ・桃原和広 <sup>1)</sup> ・木村孝浩 <sup>1)</sup> ・佐藤 拓 <sup>1)</sup> ・山崎勇人 <sup>1)</sup> ・池田英彦 <sup>1)3)</sup> (1) 日本変形菌研究会; 2) 越前町立福井総合植物園; 3) (株) 環境指標生物)
18:00	懇親会(ホテル サンルート小松 2F 「インペリアル」)		

6月15日(日) サイエンスヒルズこまつ

	A 会場	B 会場	C 会場
時刻	座長 橋本 靖	座長 服部 力	座長 中島千晴
9:30	A07 本邦シイ林における外生菌根菌多様性と群集組成の地理的パターン ○松岡俊将 <sup>1)</sup> ・川口恵里 <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 京大生態研センター； <sup>2)</sup> 京大理)	B07 日本産アンズタケの形態学のおよび分子系統学的解析 ○小川和香奈・遠藤直樹・山田明義 (信州大学)	C07 日本産 <i>Grossmannia piceiperda</i> complex の分類学的検討 ○安藤裕萌 <sup>1)</sup> ・升屋勇人 <sup>2)</sup> ・山岡裕一 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 筑波大院 生命環境； <sup>2)</sup> 森林総研東北)
9:45	A08 モグラ科動物の排泄所にはどのような菌根菌が潜んでいるのか？ ○三上 愛 <sup>1)</sup> ・橋屋 誠 <sup>2)</sup> ・保坂健太郎 <sup>3)</sup> ・糟谷大河 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉科学大危機管理； <sup>2)</sup> 富山県中央植物園； <sup>3)</sup> 国立科博)	B08 <i>Sirobasidium japonicum</i> の分類学的再検討 ○山田宗樹・出川洋介 (筑波大菅平)	C08 形態および分子系統に基づく <i>Lambertella advenula</i> の再分類について 趙彦傑 <sup>1)</sup> ・○細矢 剛 <sup>2)</sup> ・山岡裕一 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 筑波大・生命環境； <sup>2)</sup> 科博)
10:00	A09 Zn <sup>2+</sup> がマツタケ菌叢形態および代謝物プロファイルに与える影響 ○田崎徳也 <sup>1)</sup> ・清水邦義 <sup>2)</sup> ・近藤隆一郎 <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 九大院生資環； <sup>2)</sup> 九大院農)	B09 <i>Epulorhiza</i> 属の種分類における数珠状細胞形態の重要性について ○藤森祥平・阿部淳一・山岡裕一 (筑波大生命環境)	C09 <i>Pseudolachnea</i> 様菌類の分類学的再検討 ○橋本 陽 <sup>1)2)</sup> ・佐藤玄樹 <sup>1)</sup> ・松田考広 <sup>1)</sup> ・田中和明 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 弘前大農生； <sup>2)</sup> 岩手連大)
10:15	A10 タマゴタケの菌根接種によるコナラ属およびモミ属実生との菌根形成 ○遠藤直樹・山田明義 (信大農)	B10 <i>Henningsomyces</i> 属の日本未報告種 2 種について ○中野 遼 <sup>1)</sup> ・早乙女梢 <sup>2)</sup> ・中桐 昭 <sup>2)</sup> ・前川二太郎 <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 鳥取大院農； <sup>2)</sup> 鳥取大農)	C10 Two new and one unique powdery mildew species found in Indonesia Siska Arie Santy Siahaan <sup>1)</sup> , Iman Hidayat <sup>2)</sup> , Kartini Kramadibrata <sup>2)</sup> , Jamjan Meeboon <sup>3)</sup> , Susumu Takamatsu <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Graduate School of Bioresources, Mie Univ., <sup>2)</sup> Indonesian Institute of Sciences, <sup>3)</sup> Department of Agriculture, Thailand)
10:30	A11 日本産コマチゴケ ( <i>Haplomitrium mnioides</i> ) の地下茎に内生する菌類の同定 ○山本航平 <sup>1)</sup> ・出川洋介 <sup>2)</sup> ・山田明義 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 信州大農； <sup>2)</sup> 筑波大菅平)	座長 大園享司	C11 白色コロニーを形成する日本新産種 <i>Trichoderma crystalligenum</i> について ○矢吹俊裕 <sup>1)</sup> ・宮崎和弘 <sup>2)</sup> ・奥田 徹 <sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 玉川大院農； <sup>2)</sup> 森林総研九州支所； <sup>3)</sup> 東大院)
10:45	座長 楠田瑞穂	B12 筑波大学菅平高原実験センターにおけるアカマツ針葉上の <i>Coleosporium</i> 属菌の種構成と出現頻度 ○鈴木浩之・山岡裕一・出川洋一 (筑波大学生命環境科学)	C12 ブナ属に寄生する <i>Neohendersonia</i> 属菌 の分類学的検討 ○松村美里 <sup>1)</sup> ・加藤航 <sup>1)</sup> ・橋本陽 <sup>1)2)</sup> ・高橋由紀子 <sup>3)</sup> ・白水貴 <sup>4)</sup> ・田中和明 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 弘前大農生； <sup>2)</sup> 岩手連大； <sup>3)</sup> 東大院新領域； <sup>4)</sup> 科博植物・学振PD)
11:00	A12 マツタケ単一子実体由来多胞子分離株の生理学的特性比較 ○堀米由夏・早川記央・山田明義 (信大農)	B13 ヤエムグラにおけるさび病菌感染個体と非感染個体の内生菌群集構造 ○三輪恵実・岡根 泉・山岡裕一 (筑波大生命環境)	座長 稲葉重樹
	A13 ヒラタケクロラムフェニコール耐性変異株の子実体発育時における遺伝子発現の解析 ○森 恒暁 <sup>1)</sup> ・森永真衣 <sup>1)</sup> ・奥田康仁 <sup>2)</sup> ・江草真由美 <sup>3)</sup> ・松本晃幸 <sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 鳥取大院農； <sup>2)</sup> 菌蕈研究所； <sup>3)</sup> 鳥取大農)		C13 北海道の河川から分離された新種 <i>Phytophthium</i> 属菌の形態的および分子系統的特徴 ○Baten Md. Abdul <sup>1)</sup> ・石黒 泰 <sup>1)</sup> ・須賀晴久 <sup>2)</sup> ・景山幸二 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 岐大流域圏セ； <sup>2)</sup> 岐大生命セ)

6月15日(日) サイエンスヒルズこまつ

	A 会場	B 会場	C 会場
時刻	座長 楠田瑞穂	座長 大園享司	座長 稲葉重樹
11:15	A14 ネパール原生キノコエタノール抽出物の生理活性評価 ○西田麻理奈 <sup>1)</sup> ・Tran Hai Bang <sup>1)</sup> ・須原弘登 <sup>2)</sup> ・土居克実 <sup>3)</sup> ・深見克哉 <sup>4)</sup> ・Gopal Prasad Parajuli <sup>5)</sup> ・渡辺和夫 <sup>5)</sup> ・Mahesh Kumar Adhikari <sup>5)</sup> ・Hira Kaji Manandhar <sup>5)</sup> ・清水邦義 <sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 九大院生資環; <sup>2)</sup> 宮崎県木材利用技術センター; <sup>3)</sup> 九大院農; <sup>4)</sup> 九大有体物管理センター; <sup>5)</sup> Nepal Agriculture Research Council (NARC)	B14 ヤブツバキ葉に内生するリテイズマ科菌類の種特異的な検出及び感染時期の解明 ○松倉君子・山岡裕一(筑波大院生命環境)	C14 浄水汚泥から分離された <i>Pythium</i> 属菌の新種 ○村山恵未 <sup>1)</sup> ・石黒 泰 <sup>1)</sup> ・須賀晴久 <sup>2)</sup> ・景山幸二 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 岐大流域研セ; <sup>2)</sup> 岐大生命セ)
11:30	A15 <i>Talaromyces</i> 属の属内分類群とポリエン化合物生産との相関 ○海淵 寛 <sup>1)</sup> ・森美穂子 <sup>1,2)</sup> ・野中健一 <sup>1,2)</sup> ・増間碌郎 <sup>1,2)</sup> ・大村 智 <sup>2)</sup> ・塩見和朗 <sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> 北里大院感染制御・ <sup>2)</sup> 北里大生命研)	B15 微好気培養法による菌類の探索と分離菌の特性調査 ○畑 和秀 <sup>1,2)</sup> ・早乙女梢 <sup>1)</sup> ・前川 二郎 <sup>1)</sup> ・中桐 昭 <sup>1)</sup> (鳥取大学 <sup>1)</sup> ; 大阪府立大院 <sup>2)</sup> )	C15 日本産カッパミセス科(ツボカビ門フタナシツボカビ目)の分類学的研究 ○瀬戸健介・出川洋介(筑波大菅平)
11:45	ポスター発表コアタイム(サイエンスヒルズこまつ)		
	座長 升屋勇人	座長 根田 仁	座長 寺嶋芳江
13:30	A16 イスラエル及びカリフォルニアでのアボカド生産に脅威を与えている菌養性 <i>Euwallacea</i> 属キクイムシに培養される新種, <i>Fusarium euwallaceae</i> ○青木孝之 <sup>1)</sup> ・S. Freeman <sup>2)</sup> ・M. Sharon <sup>2)</sup> ・M. Maymon <sup>2)</sup> ・Z. Mendel <sup>2)</sup> ・A. Protasov <sup>2)</sup> ・A. Eskalen <sup>3)</sup> ・K. O'Donnell <sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 生物研; <sup>2)</sup> ARO, Volcani Center; <sup>3)</sup> Univ. California; <sup>4)</sup> NCAUR, USDA-ARS)	B16 北方四島で採集されたアセタケ属菌について ○小林孝人・寺嶋芳江(琉大熱生研)	C16 氷雪菌類: 雪氷圏に生息する菌類に対する新たな用語の提案 ○星野 保 <sup>1)</sup> ・松本直幸 <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 産総研; <sup>2)</sup> 学北大農)
13:45	A17 イネ種子から分離された小型分生孢子連鎖状形成 <i>Fusarium</i> 属菌の種とフモニシン産生能 ○須賀晴久 <sup>1)</sup> ・船坂美佳 <sup>1)</sup> ・清水将文 <sup>2)</sup> ・景山幸二 <sup>3)</sup> ・百町満朗 <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 岐大生命セ; <sup>2)</sup> 岐大応生; <sup>3)</sup> 岐大流域研セ)	B17 北日本産ヌメリガサ科菌類に関する研究 8. アカヤマタケ属の2新種について ○工藤伸一 <sup>1)</sup> ・長澤栄史 <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 青森市赤坂; <sup>2)</sup> 菌蕈研究所)	C17 ロシア国で収集したトールフェスクからの <i>Neotyphodium</i> エンドファイト菌の分離・培養と我が国の牧草への人工接種による感染 ○古賀博則・柴田涼子・中村有希(石川県立大)
14:00	A18 ナガキクイムシ共生酵母の生理生化学的特徴と分子系統 ○遠藤力也 <sup>1)</sup> ・大熊盛也 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 理研 BRC-JCM)	B18 茨城県より採集された <i>Hydropus</i> 属の未記載種 ○糟谷大河 <sup>1)</sup> ・竹橋誠司 <sup>2)</sup> ・保坂健太郎 <sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉科学大危機管理; <sup>2)</sup> NPO 法人北方菌類フォーラム; <sup>3)</sup> 国立科博)	C18 ラッカーゼ・メディエーター系によるアゾ染料の脱色機構について ○池田隆造 <sup>1)</sup> ・平 修 <sup>2)</sup> ・近藤隆一郎 <sup>3)</sup> ・後藤秀幸 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 石川県立大食品科学; <sup>2)</sup> 福井県立大応用生化学; <sup>3)</sup> 九大院農サステイナブル資源科学)
14:15	A19 ブナ属に寄生する <i>Scolicosporium</i> 様菌類の分類学的検討 (2) ○田中和明 <sup>1)</sup> ・品野綾子 <sup>1)</sup> ・橋本 陽 <sup>1)</sup> ・鳥谷部綾美 <sup>1)</sup> ・山崎紘司 <sup>1)</sup> ・平山和幸 <sup>2)</sup> ・白水 貴 <sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 弘前大農生; <sup>2)</sup> 青森産技せりんご研; <sup>3)</sup> 科博植物・学振PD)	B19 石川県白山市で採集された白色マイタケの分類学的検討 ○八島武志 <sup>1)</sup> ・糟谷大河 <sup>2)</sup> ・池田良幸 <sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 石川農林総研; <sup>2)</sup> 千葉科学大危機管理; <sup>3)</sup> 石川きのこ会)	座長 埋橋志穂美 C19 不完全菌類 <i>Sphondylocephalum verticillatum</i> は接合菌類であった ○陶山 舞・出川洋介(筑波大菅平)

6月15日(日) サイエンスヒルズこまつ

	A会場	B会場	C会場
時刻	座長 青木孝之	座長 太田祐子	座長 埋橋志穂美
14:30	A20 三重県で記載された <i>Cercospora</i> 属菌群のネオタイプおよびエピタイプの選定 ○中島千晴・伊藤 眞 (三重大生資)	B20 カラムラサキハツ ( <i>Russula omiensis</i> ) とその近縁種の形態および分子系統学的解析 ○下野義人 <sup>1)</sup> ・小寺祐三 <sup>2)</sup> ・高松 進 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 三重大学生物資源; <sup>2)</sup> 京都市)	C20 バッタ目昆虫の「腸内外両生菌類」 ○出川洋介・大沢和広・瀬戸健介 (筑波大菅平)
14:45	A21 小笠原諸島父島・母島のシトネタケ科菌類 ○升屋勇人 <sup>1)</sup> ・服部 力 <sup>2)</sup> ・太田祐子 <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 森林総合研究所東北支所; <sup>2)</sup> 森林総合研究所)	B21 トビイロホウキタケ( <i>Ramaria cyanocephala</i> = <i>Phaeoclavulina cyanocephala</i> )の形態学および分子系統学的解析による分類 ○安藤洋子 <sup>1)</sup> ・前川二郎 <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 鳥取大連農; <sup>2)</sup> 鳥取大農)	C21 <i>Bojamyces repens</i> (ハルペラ目)の接合子形成の観察 ○佐藤大樹 (森林総研)
15:00	A22 チャワンタケ科シクエストレート菌 <i>Delastria</i> sp.の国内初報告および属内の系統的多様性 ○大前宗之 <sup>1)</sup> ・山本航平 <sup>2)</sup> ・折原貴道 <sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> (株)北研; <sup>2)</sup> 信州大農; <sup>3)</sup> 神奈川県博)	B22 核およびミトコンドリア系統樹のトポロジー比較から探る, <i>Rossbivevera</i> およびその類縁菌の複雑な進化史 ○折原貴道 <sup>1)</sup> ・Teresa Lebel <sup>2)</sup> ・葛再偉 <sup>3)</sup> ・Matthew E. Smith <sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川県博; <sup>2)</sup> Royal Bot. Gard. Melbourne; <sup>3)</sup> 中国科学院昆明植物研; <sup>4)</sup> Univ. Florida)	座長 出川洋介 C22 岩手県大船渡湾から分離された海産ツボカビ <i>Rhizophydium</i> について ○山口峰生・坂本節子 (水研センター瀬戸内海区水産研究所)
15:15	A23 <i>Poculum sydowianum</i> (ビョウタケ目)に類似したミズナラ内生菌の未記載種について ○細矢 剛 <sup>1)</sup> ・趙 彦傑 <sup>2)</sup> ・出川洋介 <sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 科博; <sup>2)</sup> 筑波大・生命環境; <sup>3)</sup> 筑波大・菅セ)	B23 チチタケ属子実体が分泌する乳液の生態学的機能 今江光良・小林美緒・新田真之・都野展子 (金沢大学)	C23 インドネシア土壌試料から分離された <i>Plectospora</i> 属菌 (卵菌綱・ミズカビ目) ○稲葉重樹 <sup>1)</sup> ・Muhammad Ilyas <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> NBRC; <sup>2)</sup> インドネシア科学院)
15:30		B24 マツ科植物の毬果に発生するきのこの研究Ⅱ. マツカサキノコモドキの子実体の水分屈性成長仮説の証明 ○萩本 宏	C24 <i>Pythium</i> 属および関連属を特徴づける新規形質の探索 ○埋橋志穂美・岡田 元・大熊盛也 (理研 BRC-JCM)
15:45		B25 異なる気候帯に由来するクヌギタケ属菌類の分解活性に及ぼす培養温度と落葉の樹種の影響 ○大園享司 (京都大学生態学研究中心)	C25 細胞性粘菌 <i>Polysphondylium pallidum</i> - <i>P. album</i> 群の新規2分類群について ○川上新一 (山形県博)
16:00	閉会式および学生発表優秀賞授賞式		

ポスター発表 サイエンスヒルズこまつ

コアタイム 6月15日(日) 11:45~13:00	
P01 日本産ヒメカバイロタケの分類学的再検討 ○池田美紀 <sup>1)</sup> ・黒川悦子 <sup>2)</sup> ・橋屋 誠 <sup>2)</sup> ・保坂健太郎 <sup>3)</sup> ・糟谷大河 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉科学大危機管理; <sup>2)</sup> 富山県中央植物園; <sup>3)</sup> 国立科博)	P12 ハイマツ外生菌根内に見られるピョウタケ目菌 (Helotiales)の群集構造 ○小泉敬彦・奈良一秀 (東大院新領域)
P02 カラタネオガタマおよびアーモンドに新発生したうどんこ病菌の所属 ○前野早衣子 <sup>1)</sup> ・佐藤幸生 <sup>2)</sup> ・飯塚柚奈 <sup>1)</sup> ・鍵和田聡 <sup>1)</sup> ・堀江博道 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 法政大学植物医科; <sup>2)</sup> 富山県立大学)	P13 担子菌 <i>Ceriporiopsis subvermispora</i> における $\beta$ -tubulin 遺伝子のプロモーター解析 ○坂口 拓・中沢威人・坂本正弘・本田与一 (京大院農)
P03 外国産ザイフリボク類およびセイヨウシデに発生したうどんこ病菌の所属 堀野龍介 <sup>1)</sup> ・〇市之瀬玲美 <sup>1)</sup> ・佐藤幸生 <sup>2)</sup> ・小野 剛 <sup>3)</sup> ・星 秀男 <sup>3)</sup> ・鍵和田聡 <sup>1)</sup> ・堀江博道 ( <sup>1)</sup> 法政大学植物医科; <sup>2)</sup> 富山県立大学; <sup>3)</sup> 東京農総研)	P14 日本で採取されているフウセンタケ属ジンガサドクフウセンタケ節のきのこの比較 ○宮内信之助 (新潟市)
P04 双翅目昆虫によるキノコの孢子散布 ○小林美緒・新田真之・都野展子 (金沢大学)	P15 日本新産種 <i>Leucoagaricus viridiflavus</i> (ハラタケ科) ○名部みち代 <sup>1)</sup> ・糟谷大河 <sup>2)</sup> ・保坂健太郎 <sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 神戸市西区; <sup>2)</sup> 千葉科学大学危機管理; <sup>3)</sup> 国立科博)
P05 テングタケ属子実体で繁殖する双翅目昆虫群集 ○新田真之・小林美緒・都野展子 (金沢大学)	P16 日本産ヤブニワタケの分類学的再検討 ○河原 栄 <sup>1)</sup> ・糟谷大河 <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 金沢大保健; <sup>2)</sup> 千葉科学大危機管理)
P06 湖沼堆積物における真菌様遺伝子の鉛直分布 ○西尾早生 <sup>1)</sup> ・藤井利江 <sup>1)</sup> ・安井沙英 <sup>1)</sup> ・長野由梨子 <sup>2)</sup> ・西真郎 <sup>2)</sup> ・島村繁 <sup>2)</sup> ・長濱統彦 <sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> ノートルダム清心女子大学; <sup>2)</sup> 海洋研究開発機構)	P17 国内における <i>Trichaptum</i> 属菌の分類学的再検討 ○早乙女梢 <sup>1)</sup> ・大瀧柚生 <sup>1)</sup> ・服部 力 <sup>2)</sup> ・前川二郎 <sup>1)</sup> ・中桐昭 <sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 鳥大農; <sup>2)</sup> 森林総研)
P07 炭疽病菌における種間相互作用の分子機構と生物学的意義の解明に向けたアプローチ ○幸前有香・水谷風子・辻 元人 (京府大院生環)	P18 日本産「オオメシマコブ」の再検討 ○服部 力 <sup>1)</sup> ・太田祐子 <sup>1)</sup> ・升屋勇人 <sup>2)</sup> ・的崎規規 <sup>3)</sup> ・早乙女梢 <sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 森林総合研究所; <sup>2)</sup> 森林総合研究所東北支所; <sup>3)</sup> 鳥取大学農学部)
P08 稲こうじ病菌の宿主イネ組織内での種特異的染色の試み ○伊藤 望・田中栄爾 (石川県立大)	P19 日本産およびマレーシア産のウチワタケ属菌 ( <i>Microporus</i> spp.)の ITS 領域に基づく分子系統学的解析 Thi Bee Kin <sup>1)</sup> ・〇太田祐子 <sup>2)</sup> ・服部 力 <sup>2)</sup> ・Su-See Lee <sup>1)</sup> ・早乙女梢 <sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> マレーシア森林研究所; <sup>2)</sup> 森林総合研究所; <sup>3)</sup> 鳥取大学)
P09 春日山の針広混交林分における外生菌根菌の群集構造 ○和中愛由, 松田陽介 <sup>1)</sup> ・菊地淳一 <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 三重大院生資; <sup>2)</sup> 奈良教育大)	P20 常緑広葉樹から分離された <i>Lachnum nipponicum</i> など菌類3種の形態的・培養的特徴 ○金子 繁 <sup>1)</sup> ・佐藤豊三 <sup>1)</sup> ・青木孝之 <sup>1)</sup> ・澤田宏之 <sup>1)</sup> ・永井利郎 <sup>1)</sup> ・一木 (植原) 珠樹 <sup>1)</sup> ・神田 多 <sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 生物研; <sup>2)</sup> NPO みどりのお医者さん)
P10 菌従属栄養植物タカツランの菌根菌の多様性 ○徐 慧 <sup>1)</sup> ・辻田有紀 <sup>2)</sup> ・深澤遊 <sup>1)</sup> ・阿部晴恵 <sup>3)</sup> ・馬田英隆 <sup>4)</sup> ・手塚賢至 <sup>5)</sup> ・後藤利幸 <sup>6)</sup> ・牧雅之 <sup>1)</sup> ・遊川知久 <sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> 東北大; <sup>2)</sup> 佐賀大; <sup>3)</sup> 新潟大; <sup>4)</sup> たかなべきのこ研; <sup>5)</sup> 屋久島まるごと保全協会; <sup>6)</sup> えらぶ年寄組; <sup>7)</sup> 国立科博)	P21 天然記念物イリオモテヤマネコの糞等から発生した日本新産チャワタケ類 ○吹春俊光 <sup>1)</sup> ・清水公德 <sup>2)</sup> ・寺嶋芳江 <sup>3)</sup> ・永長大輔 <sup>4)</sup> ・杉谷香世 <sup>5)</sup> ・金城典子 <sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉県立中央博; <sup>2)</sup> 千葉大真菌センター; <sup>3)</sup> 琉球大学熱帯生物圏研究センター; <sup>4)</sup> 環境省那覇自然環境事務所西表自然保護官事務所; <sup>5)</sup> 西表島エコツーリズム協会; <sup>6)</sup> 東京医科歯科大学)
P11 <i>Rhizophagus irregularis</i> におけるアーバスキュラー菌根共生に関わる遺伝子の探索 ○都築周作 <sup>1)</sup> ・半田佳宏 <sup>2)</sup> ・武田直也 <sup>1,2)</sup> ・川口正代司 <sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> 総研大・生命・基; <sup>2)</sup> 基礎生物学研究所)	P22 小笠原諸島の菌類とその宿主 (追補 2) ○佐藤豊三 <sup>1)</sup> ・小野 剛 <sup>2)</sup> ・田中和明 <sup>3)</sup> ・服部 力 <sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 生物研・ <sup>2)</sup> 東京農総研・ <sup>3)</sup> 弘前大学・ <sup>4)</sup> 森林総研)



ポスター発表 サイエンスヒルズこまつ

コアタイム6月15日(日)11:45~13:00

<p>P23 日本産菌寄生性子囊菌 <i>Hypomyces</i> について VI ○常盤俊之<sup>1)</sup>・土屋有紀<sup>2)</sup>・天野沙織<sup>3)</sup>・奥田 徹<sup>2) 4)</sup> (1) (株)日本生化学研究所; 2) (株)ハイファジェネシス; 3) 玉川大・農; 4) 東京大学)</p>	<p>P35 中国重慶市のシイ類衰退林における土壌環境が外生菌根菌群集構造に及ぼす影響 ○高橋由紀子<sup>1)</sup>・佐野太悠<sup>1)</sup>・田中(小田)あゆみ<sup>2)</sup>・福田健二<sup>1)</sup>・楊永川<sup>2)</sup> (1) 東大院新領域; 2) 森林総合研究所; 3) 重慶大学)</p>
<p>P24 熱帯産 <i>Pestalotiopsis</i> 属菌の分子系統解析と形態的特徴 ○渡辺京子<sup>1)</sup>・矢吹俊裕<sup>1)</sup>・Le Thi HoangYen<sup>2)</sup>・Duong Van HOP<sup>2)</sup>・安藤勝彦<sup>3)</sup>・野澤俊介<sup>1)</sup> (1) 玉川大学・2) ベトナム国家大学・3) 製品評価機構)</p>	<p>P36 高温条件下における <i>Cenococcum geophilum</i> とシヨウロの菌糸伸長 稲葉智美<sup>1)</sup>・○松田陽介<sup>1)</sup>・小長谷啓介<sup>2)</sup>・伊藤進一郎<sup>3)</sup> (1) 三重大院生資; 2) フロリダ大; 3) 三重大)</p>
<p>P25 A new species of the <i>Ophiostoma piceae</i> complex associated with bark beetles infesting larch in Japan ○Li Jin<sup>1)</sup>, S. Inaba<sup>2)</sup>, Yamaoka Yuichi<sup>1)</sup> (1) Tsukuba Univ.; 2) NBRC)</p>	<p>P37 ホンシメジ(<i>Lyophyllum shimeji</i>)の全ゲノム解析 ○小林裕樹<sup>1)</sup>・柴田朋子<sup>1)</sup>・山田明義<sup>2)</sup>・重信秀治<sup>1)3)</sup>・西山智明<sup>4)</sup>・長谷部光泰<sup>1)3)</sup>・川口正代司<sup>1)3)</sup> (1) 基生研; 2) 信州大学; 3) 総研大; 4) 金沢大)</p>
<p>P26 <i>Torula/Dendryphion</i> 属様の分生子を形成する未記載シネマ菌 (プレオスポラ目) ○岡田 元<sup>1)</sup>・埋橋志穂美<sup>1)</sup>・大熊盛也<sup>1)</sup>・黄 振文<sup>2)</sup>・柿 篤 眞<sup>3)</sup> (1) 理化学研究所; 2) 中興大学; 2) 吉林農業大学)</p>	<p>P38 Study of Plant Metabolite Production by Plant Growth Promoting Rhizobacteria Mahesh Adhikari, Dil Raj Yadav, Sang Woo Kim, Anam Giridhar Babu, Youn Su Lee*(Kangwon National University, Korea)</p>
<p>P27 キクセラ目菌類の昆虫腸内への適応と進化に迫る ○大沢和広・瀬戸健介・出川洋介 (筑波大菅平)</p>	<p>P39 ヒゲカビ2種間の接ぎ木により作出した“雑種”ヘテロカリオンの特徴 阿部友里恵・鈴木佑季子・○宮寄 厚 (石巻専修大・理工)</p>
<p>P28 Selection of Dark Septate Endophytic Fungal Isolates that Potential as Cellulose Decomposer and Tomato Plant Growth Promoter Surono<sup>1,2)</sup> and Kazuhiko Narisawa<sup>2)</sup> (1) Indonesian Soil Research Institute, Indonesia; 2) Graduate School of Agriculture, Ibaraki University, Japan)</p>	<p>P40 アミスギタケの子実体形成に及ぼすアミノ酸の添加効果 ○楠田瑞穂<sup>1)</sup>・上田光宏<sup>1)</sup>・白坂憲章<sup>2)</sup>・寺下隆夫<sup>2)</sup> (1) 大阪府立大; 2) 近畿大)</p>
<p>P29 神奈川県博の今関六也コレクション ○大坪(小出)奏<sup>1)</sup>・折原貴道<sup>1)</sup>・出川洋介<sup>2)</sup> (1) 神奈川県博・2) 筑波大菅平)</p>	<p>P41 人工栽培ブナシメジ子實體の ACE 阻害活性 ○金 珉京<sup>1)</sup>・李 晩徽<sup>2)</sup>・李 鍾秀<sup>3)</sup>・徐 健植<sup>1)</sup> (1) 韓国農水産大; 2) 慶北大; 3) 培材大)</p>
<p>P30 本郷博士記載種の京都・滋賀周辺の基準産地の分布、植生と現状 ○佐久間大輔<sup>1)</sup>・橋屋 誠<sup>2)</sup> (1) 大阪市立自然史博物館、2) 富山県中央植物園)</p>	<p>P42 Characteristics of the Two Unrecorded Yeasts from Wild Flowers in Ulleung-do, Korea Se-Hee Hyun<sup>1)</sup>, Jin-Hong Min<sup>1)</sup>, Hyang Burm Lee<sup>2)</sup>, Ha-Kun Kim<sup>1)</sup> and Jong-Soo Lee<sup>1)*</sup> (1) Paichai University, Korea, 2) Chonnam National University, Korea)</p>
<p>P31 属特異的プライマーによる本郷次雄標本の断片化した DNA 増幅の試み ○今村彰生<sup>1)</sup>・乾 美浪<sup>3)</sup>・菊地淳一<sup>3)</sup>・佐久間大輔<sup>2)</sup> (1) 北海道教育大学旭川; 2) 大阪市立自然史博物館; 3) 奈良教育大学)</p>	<p>P43 ナメコ子実体中に存在するチロシナーゼとその前駆体の免疫組織学的分析 手塚裕夢<sup>1)</sup>・田中榮爾<sup>2)</sup>・○小西康子<sup>1)</sup> (1) 石川県大食品科学; 2) 石川県大環境科学)</p>
<p>P32 2011年3月11日以前のきのこ標本から探る放射性セシウムの動向 ○保坂健太郎 (国立科学博物館植物研究部)</p>	<p>P44 トウモロコシすず紋病菌 <i>Exserohilum turcicum</i> の病原性変異 ○月星隆雄・増中 章 (農研機構畜産草地研究所)</p>
<p>P33 栃木県内で採取された野生きのこの放射性セシウム ○大橋洋二・石川洋一・長嶋恵里子 (栃木県林業センター)</p>	<p>P45 ダイコン炭疽病菌 <i>Colletotrichum dematium</i> のハウレンソウに対する病原性 ○富岡啓介・関口博之・野見山孝司・大崎秀樹・伊藤陽子・竹原利明 (近中四農研)</p>
<p>P34 セルロースプレートと寒天培地を併用した土壌糸状菌の分離 ○野中健一<sup>1,2)</sup>・戸高 眠<sup>3)</sup>・大村 智<sup>1)</sup>・増間碌郎<sup>1,2)</sup> (1) 北里大生命研; 2) 北里大院感染制御; 3) 極東製薬工業)</p>	<p>P46 Antagonistic Effect of Nigerian Soil Bacteria against Various Phytopathogenic Fungi Dil Raj Yadav, Sang Woo Kim, Mahesh Adhikari, Anam Giridhar Babu and Youn Su Lee*(Kangwon National University, Korea)</p>

高校生ポスター サイエンスヒルズこまつ

コアタイム 6月14日(土) 12:00~13:00	
HP01	<p>サクラてんぐ巣病に関する調査報告 堀 比翼・松本侃太・木下起希・駒野美咲・坂口郁佳・谷口保乃加 (引率者：橋本由香里) 福井県立丹生高等学校</p>
HP02	<p>粘菌はどのようにして餌を見つけるか 内田瀬名 (引率者：溝上 豊) 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校自然科学部</p>
HP03	<p>天然酵母の分離と活用に関する研究 飯沼堯哉・山岸寛幸 (引率者：大矢英樹) 岐阜県立岐阜農林高等学校食品科学科</p>
HP04	<p>六甲山再度公園におけるキノコの出現傾向について ～長期観察記録から読み取れること 石田初音・長田祐基・鶴岡脩真・小野高滉 (引率者：河合祐介) 兵庫県立御影高等学校環境科学部生物班</p>
HP05	<p>地球温暖化から産地を守る ～キノコの植物成長調節物質を活用した新たな土壌改良資材の開発～ 田中捺未・望月芽以・加藤 諒・佐野幹太・今瀧友理弥・帖地一樹・内藤 黎・成島浩暉・刈谷美咲・杉山絵里香 (引率者：望月基希) 静岡県立富岳館高等学校・キノコ研究班</p>
HP06	<p>変形菌の研究 変形体の「自分と他人」の境い目について 増井真那 (引率者：増井 潔) 東京都立小石川中等教育学校</p>

その他

サイエンスヒルズこまつ 6月14日(土), 6月15日(日)

アマチュアの連絡会(有志)

第58回大会 アマチュア研究者の取り組み2014 ー共通の取り組みを目指してー

佐野書店

菌類関係洋書, きのコグッズの展示および即売

株式会社メイズ

生物学研究ソフトウェア展示

## 第58回大会実行委員会

佐藤 幸生 大会実行委員長  
田中 栄爾 事務局長  
森川 千春 実行委員  
宗田 典大 実行委員  
能勢 育夫 実行委員  
都野 展子 実行委員  
赤石 大輔 実行委員  
橋屋 誠 実行委員  
松本 淳 実行委員  
糟谷 大河 実行委員  
高畠 幸司 実行委員  
佐々木 史 実行委員  
本橋 慶一 実行委員  
服部 力 実行委員

富山県立大学 工学部  
石川県立大学 生物資源環境学部 環境科学科  
石川県農林総合研究センター  
石川県奥能登農林総合事務所  
石川きのこ会  
金沢大学自然科学研究科生命科学専攻  
NPO 法人能登半島おらっちゃんの里山里海  
公益財団法人 花と緑の銀行 中央植物園部  
越前町立福井総合植物園  
千葉科学大学 危機管理学部 環境危機管理学科  
富山県農林水産総合技術センター  
富山県農林水産総合技術センター  
東京農業大学 地域環境科学部 電子顕微鏡室  
森林総合研究所 森林微生物研究領域 森林病理研究室

## 大会会場へのアクセス

JR 小松駅から徒歩すぐ、小松空港からバスで12分、小松ICから約10分です。



■ JR 北陸線利用の場合（JR 小松駅）  
東京から新幹線（越後湯沢駅もしくは米原駅経由）、  
特急で4～5時間  
大阪から特急で約2時間30分  
名古屋から特急で約2時間45分

■ 飛行機利用の場合（小松空港）  
東京（羽田、成田）から約1時間  
札幌（新千歳）から約1時間40分  
福岡から約1時間15分  
その他 仙台、那覇、ソウル、上海、台北からの便があります。

■ 北陸自動車道の場合（小松IC）  
JR 小松駅周辺に小松市営駐車場がありますので  
ご利用ください（1日1000円程度）。

## 大会会場周辺図

